

小さい町だから出来る 町民と図書館のいい関係

小布施町ってどこ？

小布施町は長野県の北部に位置し、「牛に引かれて善光寺参り」で有名な長野市の善光寺から車で30〜40分で到着します。町域は19㎢、長野県内で面積が一番小さい自治体で約11000人が住む町です。役場を中心に半径2kmの円を描けば全ての集落が入り、小学校1校、中学校1校でお互いの顔が見える、ほど良いコミュニティが保たれています。

江戸時代後期、浮世絵師の葛飾北斎が80歳を超えてから度々小布施を訪れ、町内に多くの肉筆画や天井絵を残しました。北斎の肉筆画を展示した「北斎館」や、景観を大切にしました町並み、花のまちづくりなども相まって、年間100万人を超える来訪者で賑わう町になっています。

小布施町立図書館について

1 図書館の歴史

大正12年に村民（当時は小布施村）からの寄付や寄贈で、長野県下では9番目の公共図書館として開館しました。その

後移転を繰り返して、昭和54年に役場庁舎が新設されたときに、庁舎の3階に図書館が置かれました。庁舎内という合理性はありましたが、手狭な上にエレベーターもなく利便性に欠け、更には長野県下では電算化が一番遅れてしまったこともあり、独立した建物としての図書館を望む声が聞かれるようになりました。

2 新しい図書館の建設

平成18年「第四次小布施町総合計画・後期基本計画」の重点施策として「図書館の整備・充実と情報サロンとしての活用」が示されました。これに基づいて公募町民をメンバーとした「図書館のあり方検討会」を発足させ、誰にでも親しまれる新しい図書館を目指して検討が始まりました。また、様々な機会をとらえ町民の皆さんから意見や要望などを受ける中で、新しい図書館は「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報発信の場」を4つの柱とし、「交流と創造を築しむ、文化の拠点」を運営の理念として建設に向けて動き出し、平成21年7月に竣工・開館しました。

小布施町教育委員会 教育次長
(図書館長兼務) 三輪 茂



まちとしょテラス夜景外観

まちとしょテラスって何？

旧図書館は、「町図書」の愛称で親しまれていました。この「町図書」を「まちとしょ」というひらがな表記により、「町」だけではなく「待ち」をイメージさせて、町の図書館であることと、待ち